

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	人文科学概論（コミュニケーションを含む）	
科 目 担 当 者	平瀬芳美	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
使用教科書	鍼灸臨床における医療面接	
使用参考書	なし	
評価方法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。定着度の確認は、通常授業の中での質疑応答または中間期の形成的評価によって行います。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、主に医療接遇について学びます。 （1）医療面接について（接遇実技を含む） （2）接遇について（外部講師による特別授業を含む） （3）上記以外の内容（例：パソコンの基礎知識、文芸等） 3については、クラスの希望に基づいて実施します。	
授業の展開	授業（座学）は、冒頭に前回の授業の確認をおこない、教科書を中心に進めます。内容の区切りごとにまとめデータを出しますので、復習に役立ててください。実技は、資料配布・説明・オリエンテーションを経て実施し、事後にフィードバックをおこないます。 なお、内容・実施順・時間配分・評価方法等は、実情に応じて変更する事があります。	
自己学習の進め方	利用者の皆さんには復習を軸にした学習習慣の形成を期待します。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 32時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 17	
1 人文科学概論オリエンテーション	1	
2 医療面接（解説編）		
（1）復習（実践編、墨字：18～69頁、DAISY：12～44頁、点字：第1巻）	1	
（2）理想的な医療面接（墨：72～95、D：48～65、点：第2巻1～47）	1	
（3）医療面接のコミュニケーション（墨：97～111、D：66～76、点：48～78）	1	
（4）コミュニケーションの実際（墨：112～117、D：76～80、点：78～90）	1	
（5）ことば遣い（待遇表現、敬意表現）（墨：117～122、D：80～83、点90～99）	2	
（7）方言、身だしなみ、環境整備（墨：123～128、D：84～87、点99～108）	2	
（8）質問法（墨：131～140、D：89～94、点：115～131）	2	
（9）傾聴（墨：141～164、D：96～111、点：133～173）	2	
3 まとめ又は中間期チェック	1	
4 接遇（外部講師による特別授業を含む）	3	
5 期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計 15	
1 医療面接（続き）		
（1）患者の解釈モデル（墨：166～189、D：113～130、点：第3巻1～47）	2	
（2）患者への説明、教育（墨：192～206、D：131～141、点：52～76）	1	
（3）患者への対応（セクハラ等）（墨：207～228、D：142～158、点：79～122）	2	
（4）医療面接学習編（墨：232～268、D：162～181、点：第4巻）	2	
2 まとめ又は中間期チェック	1	
3 接遇実技（臨床実習における患者対応）		
（1）シナリオ確認	2	
（2）オリエンテーション	2	
（3）患者対応ロールプレイ	1	
（4）反省、フィードバック	1	
4 その他	1	
5 期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	社会科学概論	
科 目 担 当 者	河原塚 由紀	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
使用教科書	なし	
使用参考書	なし	
評 価 方 法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	コンピュータの活用を通じて、視覚障害者の文書処理に活用し、各科目の学習に役立てるとともに、情報を適切に収集・処理・発信するための基本的な知識や技能を習得する授業です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業はカルテ作成を目標において進め、各項目ごとに習得度を確認します。習得が不十分な場合は可能な限り繰り返し練習することで理解を深めます。	
自己学習の進め方	1週間に1回の授業ですので、授業のみでの技術の習得は難しいこともあります。そのため利用者の皆さんには技術がより早く定着できるよう、1回につき短時間でも良いので居室または学習パソコン室において実際にパソコンを使用して繰り返しの練習を期待します。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 32時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 17	
パソコンによる情報処理		
①ガイダンス		1
②パソコンの仕組み		2
③キーボード操作と音声ソフト		8
④パソコンソフトの実際		3
⑤パソコンの活用		3
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計 15	
パソコンの理療への活用		
①理療におけるパソコン利用の目的と意義（カルテ作成）		13
②理療援助の支援システム		1
③その他の支援システム		1
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	自然科学概論	
科 目 担 当 者	武田和男	
単位数・年間時間数	2単位・30時間	
使 用 教 科 書	印刷されたプリントや教室実験・ビデオ視聴	
使 用 参 考 書	「空気の発見」「発明発見物語」「生命46億年の旅」「地球大進化」	
評 価 方 法	学年末評価は、前期と後期の期末試験による評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	原子と分子が生命現象の基本構造を形成しその変化によって生命活動が維持されており、原子レベルから地球の生命活動があることを理解し、地球史レベルの時間の流れと生命の進化を探ります。	
授 業 の 展 開	毎時間印刷され用意されたテキストの音読による理解と、ビデオ教材の視聴、実験により授業を展開します。	
自己学習の進め方	毎時間の授業に集中し考えをまとめ、試験前に総合的に復習してください。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	32時間
前 期 < 17 週 >	前期計	17
空気の発見(ガリレオの実験・マグデブルグの半球実験)		3
老けない人の免疫力		3
ファープル昆虫記		2
もしも原子が見えたなら		2
人はどんな原子でできているか		1
日本の味噌		3
DVDツバルの海と沈む島		1
歌う生物学		1
テスト対策		1
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計	15
免疫革命		1
ワタムシ		1
地球大進化1～3		2
まとめ		1
地球大進化4～6		3
まとめ		1
種の起源について		1
地球事変(酸素大発生)		1
生命大躍進(脳の進化)		1
ミクロの大冒険(誕生/細胞/脳)		1
ミクロの大冒険(細胞が老いとたたかう)		1
テスト対策		1
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	保健体育	
科 目 担 当 者	新 八 吉	
単位数・年間時間数	1単位・30時間	
使用教科書	なし	
使用参考書	なし	
評 価 方 法	観察記録法により評価します。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な健康・安全や身体運動について学び、健康の保持増進のため運動を実践し、これを施術に応用する能力と態度を習得する授業です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の復習をし、また授業では各種目の完成を目指します。毎回習得度を確認し、不十分であれば繰り返し練習することで理解を深めます。	
自己学習の進め方	授業でスムーズに身体を動かすことができるように、またケガの予防のため日頃より軽くトレーニングを行ってください。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	32時間
前 期 < 17 週 >	前期計	17
フライングディスク		4
陸上競技		4
球技		4
ストレッチ体操		1
レクリエーション		3
講義		1
後 期 < 15 週 >	後期計	15
陸上競技		4
球技		2
レクリエーション		1
ボッチャ		3
講義		1
ターゲットバードゴルフ		4

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	生理学Ⅱ	
科 目 担 当 者	古賀英樹	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 人体の構造と機能生理学第2版	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 生理学	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	この科目では人体の正常な機能について学びます。内分泌、生殖成長と老化、神経、筋、運動、感覚および生体の防御機構の仕組みについて理解することは、医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、人の健康に携わる施術師にとって非常に重要な科目であります。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は教科書を中心に進め、既習内容については発問を交えて知識の確認をします。必要に応じて大きな単元の終了ごとにまとめの資料を希望媒体で配布する場合があります。更に、試験前には国家試験などの問題集を使用して問題演習をします。	
自己学習の進め方	1. 復習は配布資料を精読して、内容の理解に努めて下さい。理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。 2. 受験対策として単元毎に提示した確認問題は必ず解くようにしておいて下さい。学習の要点が分かり、講義への理解と試験対策になります。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	96時間
前 期 < 17 週 >	前期計	51
オリエンテーション		1
第9章 内分泌		10
第9章 生殖・成長と老化		7
第10章 神経		18
第11章 筋		10
前期学習内容の総まとめ(中間及び期末試験の講評、演習問題の実施などを含む)		5
中間試験		
期末試験		
後 期 < 15 週 >	後期計	45
第11章 筋		3
第12章 運動		14
第13章 感覚		12
第14章 生体の防御機構		8
第15章 身体活動の協調		3
後期学習内容の総まとめと国試対策(中間及び期末試験の講評、演習問題の実施などを含む)		5
中間試験		
期末試験		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	病理学	
科 目 担 当 者	小原恵子	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）改訂第7版 オリエンズ研究会 著	
使 用 参 考 書	疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論）（病理）共用 改訂第7版 第2巻 オリエンズ研究会 著	
評 価 方 法	前期・後期それぞれに中間試験と期末試験を行います。その平均（小数点以下切捨て）を学期末評価とします。 学年末評価は前期・後期の学期末評価の平均（小数点以下切捨て）とします。	
科目の概要と学習の目的	病理学は、疾病を研究する学問であり、疾病の原因、疾病によって起こる体への変化、結果などを形態的、機能的に観察して診療に役立てます。聞きなれない医学用語も多く出てきますが、基礎医学系科目や臨床医学系科目にも関連がある為、知識習得に重要な科目です。	
授 業 の 展 開	教科書に沿って授業を進めます。授業の冒頭では前時の復習、授業の終わりにはその授業の要点をまとめます。あはき師国家試験出題傾向に沿った授業を行います。授業進行に合わせて練習問題等を提示して学習のポイントを理解していただきます。	
自己学習の進め方	授業中に提示された要点について理解を深める為、復習をしましょう。 『疾病の成り立ちと予防Ⅱ（病理学概論） 改訂第7版 第2巻』を使用し、要点ポイントの整理をお勧めします。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 64時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 34	
ガイダンス説明	1	
第1編 病理学の基礎	4	
第2編 病因		
内因	7	
外因	8	
第3編 病変		
循環障害	6	
退行性病変	6	
中間試験		
中間試験の講評	1	
期末試験		
期末試験の講評	1	
後 期 < 15 週 >	後期計 30	
第3編 病変		
進行性病変	6	
炎症	8	
腫瘍	8	
免疫異常	6	
中間試験		
中間試験の講評	1	
期末試験		
期末試験の講評	1	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	臨床医学総論	
科 目 担 当 者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	日本理療科教員連盟教科書委員会編 生活と疾病Ⅱ臨床医学総論	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 臨床医学総論	
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い、その平均点(小数点以下は切り捨て)を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	この科目は診察と治療の概要を学びます。具体的には診察方法、診察所見、症状、検査、治療について学びます。この科目の知識は、患者の訴える症状や所見、検査結果から推論される疾患を導き出す能力となり、実際の臨床における診察から診断へ結びつけるための知識となります。国家試験だけでなく、臨床でも欠かせない知識となる重要な科目です。	
授 業 の 展 開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項を中心に教授しますが、解剖学や生理学、臨床医学各論など他の科目との関連性についても説明します。また、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。あはき臨床で必要な検査については実習形式でも行います。	
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 96時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 51	
第1章 診察の概要	2	
第2章 診察の方法		
第1節 医療面接	4	
第2節 視診	15	
第3節 打診	4	
第4節 聴診	6	
第5節 触診	10	
第6節 測定法	8	
中間試験		
期末試験		
講評	2	
後 期 < 15 週 >	後期計 45	
第2章 診察の方法		
第7節 神経系の診察	15	
第8節 その他の身体機能の診察法	10	
第3章 臨床検査	10	
第4章 治療法	6	
第5章 臨床心理	2	
中間試験		
期末試験		
講評	2	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	理療臨床医学各論（病態生理学を含む）	
科 目 担 当 者	山本 浩二	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	盲学校教科書編纂委員会編 生活と疾病Ⅲ臨床医学各論第4版	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期、後期ともに中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の病態生理及び診断、治療に関する基礎的知識について学び、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。教科書の内容に沿って進め、特に解剖学と生理学と関連付けられるように説明をします。	
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、提示される課題に取り組んで下さい。必要に応じて資料を配布しますが、授業に集中して自ら要点を整理できるように努めて下さい。	
授 業 内 容	（ 予 定 ）	合計 96時間
前 期	< 17 週 >	前期計 51
1. 整形外科疾患の病態生理学及び診断、治療		
①関節疾患		6
②骨代謝性疾患・骨腫瘍		4
③筋・腱疾患		2
④形態異常		4
⑤脊椎疾患		8
⑥脊髄損傷		2
⑦外傷		8
⑧その他の整形外科疾患		2
2. 神経疾患の病態生理学及び診断、治療		
①脳血管疾患		6
②感染性疾患及び脱髄性疾患		2
復習、その他		7
中間試験		
期末試験		



後 期 < 15 週 >	後期計 45
2. 神経疾患の病態生理及び診断、治療	
③脳脊髄腫瘍	2
④変性疾患	4
⑤認知症	4
⑥筋疾患	2
⑦運動ニューロン疾患	2
⑧末梢神経疾患	6
⑨神経痛	4
⑩頭痛	4
3. 一般外科（病態生理及び診断、治療）	8
4. 麻酔科・ペインクリニック（病態生理及び診断、治療）	4
中間試験	
期末試験	
復習、その他	5

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	東洋医学概論Ⅱ	
科 目 担 当 者	古賀 英樹	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）	
使 用 参 考 書	新版 東洋医学概論（東洋療法学校協会篇）・針灸学〔基礎編〕（日中共同編集）	
評 価 方 法	前期・後期とも、中間期と期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験（評価）を行い、その平均点（小数点以下は切り捨て）を当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点（小数点以下は切り捨て）です。	
科目の概要と学習の目的	1年次に学習した東洋医学概論Ⅰの基礎的知識を活用し、前期では病理病証を学び、後期では診断論・治療論の知識を身につけ、あはき施術を適切かつ効果的に行う知識・能力と態度の獲得を目指します。また、3年次に配当されている東洋医学臨床論を学ぶ上でも基礎となる重要な科目です。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習します。授業は教科書を中心に進め、既習内容については発問や国家試験の過去問を使って知識の確認をします。必要に応じて追加資料などを配布します。	
自己学習の進め方	この科目で習得する知識・技術は、すでに履修済みの経絡経穴概論Ⅰ、東洋医学概論Ⅰの知識を必要としますので、各科目の復習をしておいてください。講義中や自己学習中に解決できない事項については、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 96時間	
前 期 < 17 週 >	前期計	51
第2編 東洋医学の生理観		
第4章 経絡と経穴		3
第3編 東洋医学の疾病観		
第1章 病因論		10
第2章 病機		1
第3章 病理・病証論		22
第4編 診断論		
第1章 診察法の概要		1
第2章 四診法		12
中間試験		
中間試験の講評		1
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 15 週 >	後期計	45
第4編 診断論		
第2章 四診法		27
第3章 証の立て方		3
第5編 治療論		
第1章 東洋医学における治療原則		3
第2章 鍼灸治療		4
第3章 日中鍼灸医学の特徴		2
第4章 手技療法		2
第6編 東洋医学の沿革		2
中間試験		
中間試験の講評		1
期末試験		
期末試験の講評		1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	経絡経穴概論Ⅱ	
科 目 担 当 者	佐藤浩輔	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書	東洋療法学校協会編「新版 経絡経穴概論(拡大版第2版)」	
使 用 参 考 書	なし	
評 価 方 法	中間試験(実技試験)、期末試験(筆記試験及び実技試験)で評価します。	
科目の概要と学習の目的	はり師、きゅう師として必要な経絡経穴の基本的事項について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得する授業です。	
授 業 の 展 開	前期では、1年次に指導を割愛した経穴を学習します。また、神経・筋・動脈と経穴の関係も重要です。「要穴の概要その1」では五行穴を中心に学習します。後期では、奇形八脈・奇穴・新穴等を学習します。「要穴の概要その2」では五行穴以外の要穴を学習します。なお、各学期に実技試験を2回行います。	
自己学習の進め方	十四経脈の所属経穴の部位と取穴法を簡便に記した資料を作成し、それを用いて講義を進めます。そのため、講義中は配布資料の内容を確認し、講義後は実際に自分の身体で経穴を指し示しながら定期的に復習することで、部位と取穴法の理解に努めてください。また、理解できないところがあれば、教科書を調べ、それでも解決できなければ、次の講義までに担当教官に質問し確認して下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	64時間
前 期 < 17 週 >	前期計	34
1 経絡経穴の概要		
(1) 十二正経		1
(2) 要穴の概要(その1)		13
(3) 取穴法		4
2 経穴		
(1) 任脈・督脈の経穴名と部位		2
(2) 十二正経の経穴名と部位		14
中間試験(実技試験)		
期末試験(筆記試験)		
後 期 < 15 週 >	後期計	30
3 経絡経穴の概要(つづき)		
(1) 奇形八脈		6
(2) 要穴の概要(その2)		4
4 経穴の応用		
(1) 要穴の応用		4
(2) 組み合わせ穴		6
(3) 奇穴		6
5 経絡経穴の現代医学的研究		
(1) 経絡の研究		2
(2) 経穴の研究		2
中間試験(実技試験)		
期末試験(筆記試験)		

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	あん摩マッサージ指圧応用実習 I (臨床実習前試験等を含む)	
科 目 担 当 者	古賀英樹	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	4単位・120時間	
使 用 教 科 書	盲学校理療教科用図書編纂委員会編 保健理療基礎実習 第2版	
使 用 参 考 書	国立障害者リハビリテーションセンター理療教育課編 あま指基礎実習教官用指導マニュアル	
評 価 方 法	前期、後期ともに学期末試験と通常授業内での状況で評価します。評価項目と評価基準は事前に通知します。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。この学年末評価が60点以上であることが単位修得要件の1つです。	
科目の概要と学習の目的	基礎実習で養成された技能をより確かなものに成長させて対患者を想定し、症状に応じた手技療法が大まかに組み立てられることを学習の目的とします。前期中頃までは先ず1年次の復習から始め腹部の術式を学習します。その後、後期の前半にかけて一定時間内に全身の施術ができるような術式を学習します。後期以降では症状(主に肩や腰)に応じて診察、治療方針の設定、手技療法の選定、評価法を授業課題として基礎的臨床能力を育成し、学年末には、あま指臨床実習を実施します。	
授 業 の 展 開	授業の冒頭などで授業の課題を提示します。実習の授業ですから、指導を受ける時間と利用者同士でペアを組んで自己研鑽する時間があります。前者ではモデル役の利用者に施術しますので積極的に手を触ったり、聞いたりしてください。後者では漫然と練習するのではなく、気づきを求めて技能の修練をしてください。	
自己学習の進め方	この実習には、解剖学、理療臨床医学各論、東洋医学概論、経絡経穴概論等の内容も含まれています。特に診察に関連する解剖学的構造や疾患の概念、症状、そして徒手検査法の目的及び手順などについて復習をして実習に臨んで下さい。さらに技術の向上をはかるためには繰り返し練習することが必要となる科目です。そのため、あん摩合同補習授業(通称:あん摩クラブ)等を積極的に活用して授業時間外に少しでも多く練習時間を確保して下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 128時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 68	
基礎実習の総復習	10	
按腹	10	
全身への施術	36	
症状別あま指診療の基礎	10	
1. 肩関節痛	-	
期末試験		
試験の講評	2	
後 期 < 15 週 >	後期計 60	
症状別あま指診療の基礎	20	
2. 腰痛	-	
3. その他	-	
臨床実習に向けた全身施術	24	
臨床実習前試験等	10	
臨床実習	4	
期末試験		
試験の講評	2	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	はりきゅう応用実習 I (臨床実習前試験等を含む)	
科 目 担 当 者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	4単位・120時間	
使 用 教 科 書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床	
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期・後期とも学期末試験(80%)と平常点(20%)で評価します。学期末試験は実技試験を実施し、平常点は出席状況と授業態度により評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。なお、後期の実技試験は臨床実習前試験を含めた課題で実施します。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、現代医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。また、鍼通電療法や小児鍼、円皮鍼など応用的な鍼灸施術を体験することで、患者の状況に合わせた施術ができる知識と技術を身につけます。	
授 業 の 展 開	鍼灸施術を中心にありますが、必要に応じて灸施術も組み合わせて行います。なるべく施術する機会を多くしていきますが、施術に必要な診察技術や患者対応なども重点的に行い、臨床の流れを意識した診察と施術を症状別に、あるいは症例を提示して行っていきます。	
自己学習の進め方	現代医学的な病態把握に基づく施術をするためには、解剖学、臨床医学総論・各論、経絡経穴概論の知識が必要です。これらの科目について復習をして下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 128時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 68	
1. オリエンテーション	2	
2. 基本刺鍼の復習	7	
3. 身体各部への刺鍼(上肢、下肢、腰背部、頸肩部)	14	
4. 鍼灸施術による有害事象とリスク管理	4	
5. 臨床入門 *臨床実習前試験等	6	
6. タオルワーク	2	
7. 体表観察	10	
8. 主な症状に対する診察と施術		
(1) 腰痛	20	
9. 所外施術所見学	1	
10. 期末試験		
11. 講評	2	
後 期 < 15 週 >	後期計 60	
1. 主な症状に対する診察と施術		
(2) 頸肩こり	8	
(3) 頸肩腕痛	6	
(4) 膝痛(下肢痛を含む)	8	
(5) 肩関節痛	4	
(6) 肘関節痛	2	
(7) 神経痛・神経麻痺	8	
2. 臨床実習前試験等(現代医学的臨床推論)	11	
3. 特殊鍼法	7	
4. 物理療法	3	
5. 所内臨床実習見学	1	
6. 期末試験		
7. 講評	2	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	あん摩マッサージ指圧応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
科 目 担 当 者	関矢 稔	
単 位 数 ・ 年 間 時 間 数	2単位・60時間	
使 用 教 科 書		
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	<p>期末試験で評価します。習熟度を確保するため各学期に中間期評価を行います。成績には含めません。後期評価は、アマ指応用実習Ⅰと合同で行い、臨床前評価として身体診察から徒手検査、施術までの一連動作の習熟度を評価します。</p>	
科 目 の 概 要 と 学 習 の 目 的	<p>あん摩マッサージ指圧臨床を行う上で有効的な手技の一つである「圧迫揉捏」について、その基本動作と身体各部への応用技術を修得する授業です。後期では、3学年での臨床実習に備え、患者の主訴から行うべき徒手検査を選択し、それに基づく適切な施術ができることを目指します。</p>	
授 業 の 展 開	<p>実技指導において、目視での確認が難しい方には教官の手や体に触れてもらいながらその動きをイメージしていただきます。また随時、教官が被術者となり各自の技術を点検・修正しながら習熟を目指していきます。</p>	
自 己 学 習 の 進 め 方	<p>圧迫揉捏は比較的強い押圧が行える手技ですので、施術者側にもある程度それに見合う筋力が求められます。日頃から基礎体力訓練として腕立て伏せ等で「押す」ための筋力を鍛えておくことをお勧めします。</p>	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計	64時間
前 期 < 17 週 >	前期計	34
ガイダンス説明		1
基本動作の練習		7
側臥位での施術		25
期末試験		
期末試験の講評		1
後 期 < 15 週 >	後期計	30
伏臥位での施術		23
臨床実習前試験等		5
所内臨床実習見学		1
期末試験		
期末試験の講評		1

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。

## 平成31年度 教科指導計画書

学 年	専門課程2年	
科 目	はりきゅう応用実習Ⅱ（臨床実習前試験等を含む）	
科 目 担 当 者	加藤 麦	
単位数・年間時間数	2単位・60時間	
使用教科書	オリエンス研究会 鍼灸実技 基礎と臨床	
使用参考書		
評価方法	前期・後期とも学期末試験（80％）と平常点（20％）で評価します。学期末試験は実技試験を実施し、平常点は出席状況と授業態度により評価します。前期と後期の平均点を学年末評価とします。なお、後期の実技試験は臨床実習前試験を含めた課題で実施します。	
科目の概要と学習の目的	この科目では、東洋医学的な病態把握に基づく診察と鍼灸施術について、臨床実習に向けて最低限必要な知識と技術を学びます。特に脈診と腹診、原穴・俞穴・募穴診などの東洋医学的診察から中医学的弁証論治と経絡治療の基礎について学びます。	
授業の展開	灸施術を中心にしますが、必要に応じて鍼施術も組み合わせて行います。なるべく施術する機会を多くしていきますが、施術に必要な診察技術や患者対応なども重点的に行い、臨床の流れを意識した診察と施術を症状別に、あるいは症例を提示して行っていきます。	
自己学習の進め方	東洋医学的な病態把握に基づく施術をするためには、東洋医学概論と経絡経穴概論の知識が必要です。これらの科目について復習をして下さい。	
授 業 内 容 ( 予 定 )	合計 64時間	
前 期 < 17 週 >	前期計 34	
1. オリエンテーション	2	
2. 基本施灸の復習	6	
3. 背部俞穴の取穴と施灸	8	
4. 東洋医学的診察と施術の概要	4	
5. 脈状診	6	
6. 腹診	6	
7. 期末試験		
8. 講評	2	
後 期 < 15 週 >	後期計 30	
1. 俞募穴、原穴治療	6	
2. 比較脈診	6	
3. 基本4証（肝虚、脾虚、肺虚、腎虚）の取穴と刺鍼	6	
4. 臨床実習前試験等（臨床推論による弁証論治（婦人科、運動器、消化器、呼吸器））	8	
5. 所内臨床実習見学	2	
6. 期末試験		
7. 講評	2	

※平成31年4月授業からの指導計画であることから、新元号ではなく、平成を使用している。